愛知県陶磁資料館企画展
愛知県埋蔵文化財センター埋蔵文化財展

1000年前のハローワーク

見て触れて、親子で楽しい愛知の考古学

Job Guidance of Ancient Times for Families

製造業

焼き物をつくる　塩をつくる
布をつくる　漆塗りをつくる
金物をつくる

卸運輸業

建設業　官公庁

農業　漁業　畜産業

2010年7月3日[土]~9月26日[日]　愛知県陶磁資料館 本館

ごあいさつ

仕事はわたしたちに生活の糧と充実感を与えてくれます。人間は古来から時代に応じて様々な仕事・職業に携わってきました。本展では、2010 年 3 月に愛知県が愛知県史・考古 4(飛鳥～平安) を刊行したことに合わせ、愛知県内の古代遺跡から出土した土器や陶器など各種の資料を、職業案内風に展示紹介します。ものづくり王国愛知の原点となった製造業をはじめ、卸運輸業、建設業、農林水産業等について、先人の智恵と技術を偲ぶとともに、現代を生きる私たちや次の時代を担う若い人たちが、仕事・職業や社会について考える契機となればと思います。

最後になりましたが、本展覧会のために貴重な資料をご出品いただいたご所蔵者や、さまざまなご協力をいただいた関係者の方々に深く御礼申し上げます。

愛知県陶磁資料館
（公益）愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
愛知県教育委員会
中日新聞社

目　次

<< 製造業 >>
焼き物をつくる.....3-5.p
瓦をつくる..... 6.p

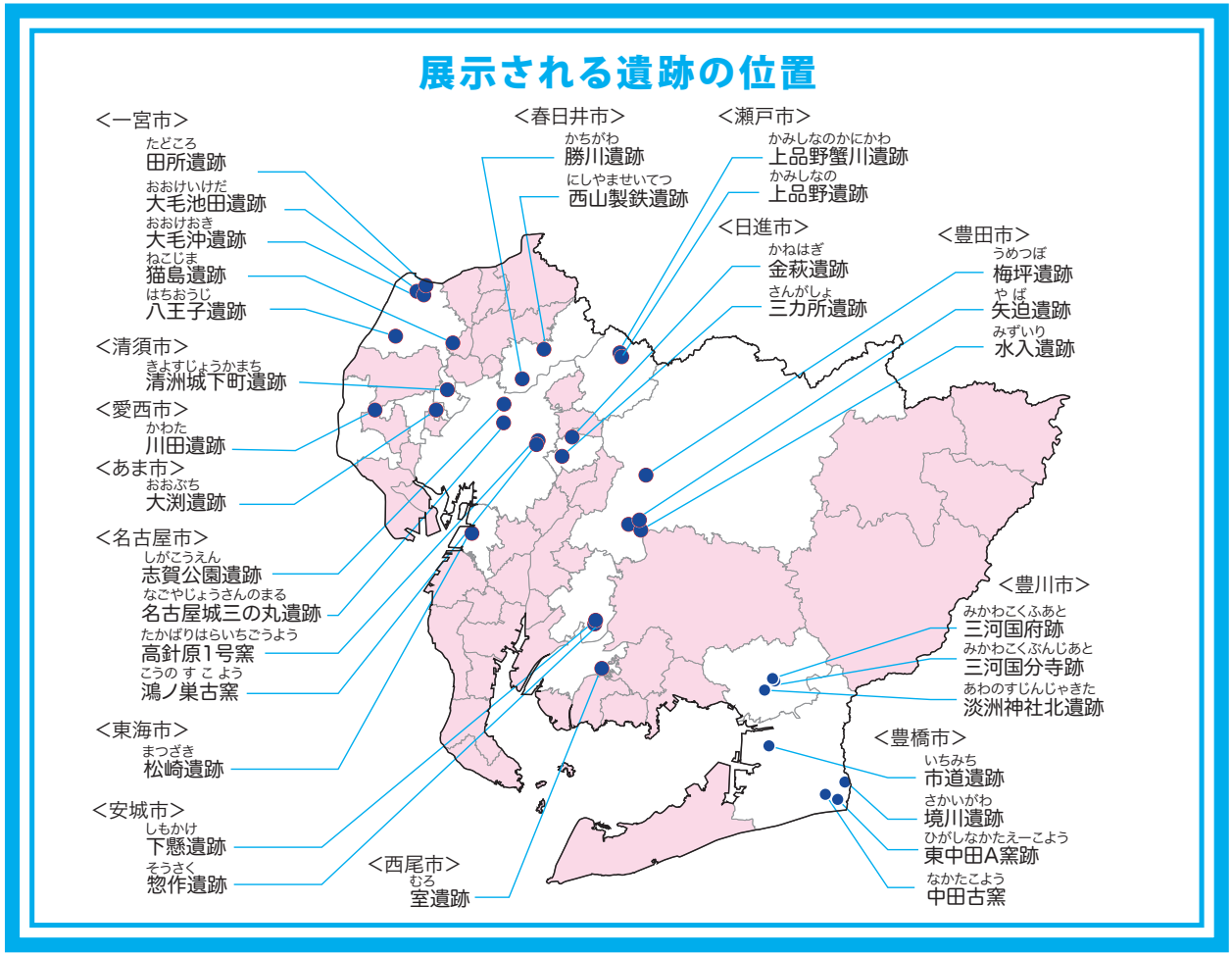
<< 卸運輸業 >>
焼き物の集荷場.....7-8.p

<< 製造業 >>
塩をつくる..... 9-10.p
布をつくる・漆塗りをつくる 11.p
金物をつくる 12.p

<< 建設業 >>
大型プロジェクト..... 13-14.p
水路をつくる 15-16.p

<< 官公庁 >>
公務員の仕事 17-18.p
けがれをはらう 19.p
文字を書く..... 20.p

<< 農林水産畜産業 >>
農業 21.p
漁業・畜産業 22.p



例　言

1. 本書は 2010 年7月3日から9月 26 日まで開催する愛知県陶磁資料館企画展・愛知県埋蔵文化財センター埋蔵文化財展「1000 年前のハローワーク」の解説書である。
2. 本企画の開催にあたり、以下の方々よりご協力を賜りました。記して感謝いたします（敬称略）。
   一宮市博物館・春日井市教育委員会・東海市教育委員会・豊川市教育委員会・豊田市郷土資料館・豊橋市美術博物館・岩原剛・杉浦裕幸・立松彰・土本典生・贄元洋・前田清彦・松本彩・村松一秀
3. 本書において所蔵者名が記載されていない遺物はすべて愛知県教育委員会が所蔵し、遺構写真等は愛知県埋蔵文化財センターが所蔵している。
4. 本書の執筆は宮腰健司・川添和暁が、編集は堀木真美子が行った。

焼き物をつくる

土器つくり

まず、粘土を掘り出してきます。次にその粘土をロクロなどを使って椀や瓶などの形にします。模様を描いたり、釉をかけたりするものもあります。

高針原1号窯（名古屋市名東区）
飛鳥時代～奈良時代＜７世紀～８世紀＞

高針原1号窯出土の須恵器

焼成

斜面に穴を掘って窯を作り、その中に乾燥させた椀や瓶を入れて、薪を燃やして焼いていきます。固い焼き物にするためには、高い温度で焼くことが必要で、温度調節のため、まる1日ずっと窯の焚き口前で火の調節をしなければならないこともあります。

失敗した焼き物

焼き方に失敗して、曲がったり、歪んだりしています。窯の近くに捨てられていました。

椀

金萩遺跡
（日進市）

杯

金萩遺跡
（日進市）

蓋

高針原1号窯
（名古屋市名東区）

長頸瓶

高針原1号窯
（名古屋市名東区）

愛知県の焼き物

縄文時代から古墳時代前期（紀元前 13 世紀～4世紀）までは、低い温度で焼く素焼きの土器のみが使われていました。

古墳時代中期（5世紀）になると、高い温度で焼く固い焼き物・須恵器を作る技術が、朝鮮半島より伝わってきました。愛知県で須恵器が初めて焼かれるのは名古屋市東部の東山で、飛鳥時代（7世紀）になると豊田市猿投山の西南に広がる丘陵地一帯に窯が築かれるようになります。この地域の窯は「猿投窯」と呼ばれ、鎌倉時代（13 世紀）になるまで 1000 基を越える窯が作られ続けていきます。

製品として出荷されもの

椀

大毛池田遺跡
（一宮市）
所蔵：一宮市博物館

双耳壺

名古屋城三の丸遺跡
（名古屋市中区）

短頸壺

小幡緑地出土
（名古屋市守山区）
所蔵：愛知県陶磁資料館

長頸瓶

出土地不明
所蔵：愛知県陶磁資料館

鳥形平瓶

伝矢作川河床遺跡
（岡崎市）
所蔵：愛知県陶磁資料館

金萩遺跡の想定図

金萩遺跡のロクロピット

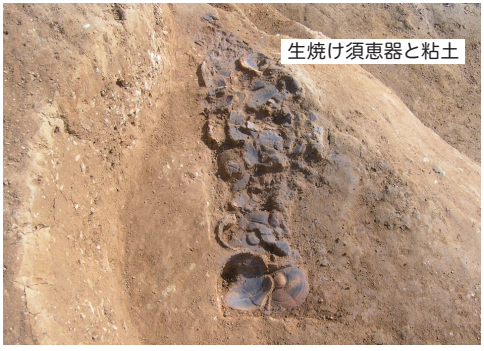
金萩遺跡

金萩遺跡は猿投窯がある猿投山西南麓の丘陵地に立地し、周辺には多くの窯が存在します。

遺跡では、ロクロの軸を固定したロクロピットや不良品を捨てた跡がみつかっており、焼き物を作っていた工房ではないかと考えられています。

金萩遺跡（日進市）
奈良時代～平安時代＜８世紀～９世紀＞

境川遺跡（豊橋市）　奈良時代＜８世紀＞



東中田Ａ古窯（豊橋市）　飛鳥時代＜７世紀＞

金萩遺跡出土の土鈴

境川遺跡・東中田Ａ古窯

また境川遺跡や東中田Ａ古窯は、豊橋市から浜松市にかけて広がる湖西窯の中の１基で、周辺には多くの窯があります。遺跡では、粘土のかたまりが出土した竪穴建物やロクロピットと思われる坑がみつかっており、この地域でも窯の近くの工房で土器を作っていたことがわかります。

瓦をつくる（かわら）

市道1号窯（豊橋市）
平安時代<9世紀>
写真：豊橋市美術博物館
＊愛知県陶磁資料館に移築してあります。

市道1号窯出土の瓦
所蔵：豊橋市美術博物館

市道遺跡出土の瓦
所蔵：豊橋市美術博物館

市道（いちみち）1号窯

古墳時代後期～飛鳥時代（6世紀）に仏教が伝わるとともに、寺が作られるようになり、屋根にはそれまでにはなかった瓦（かわら）が葺（ふ）かれます。瓦を焼くには窯が用いられますが、須恵器と同じような斜面に作られる窯（窖窯（あながま））と平地に作られる窯（平窯（ひらがま））があります。

市道遺跡（豊橋市）では、奈良時代から平安時代にかけて、規則正しくならぶ正六角形の掘立柱建物（ほったてばしらたてもの）や総柱建物（そうばしらたてもの）の倉庫群、方形の掘立柱建物などが100棟ほどみつかっており、有力な豪族（ごうぞく）の屋敷と考えられています。この屋敷の隣には寺も建てられており、寺の屋根瓦を焼くための平窯（市道1号窯・3号窯）が作られています。

市道遺跡の掘立柱建物群
写真：豊橋市美術博物館

焼き物をはこぶ

三ヶ所遺跡（日進市）出土の灰釉陶器
平安時代<9世紀～10世紀>

三ヶ所遺跡から北方向の丘陵を望む

三ヶ所遺跡から西方向の名古屋市街地を望む

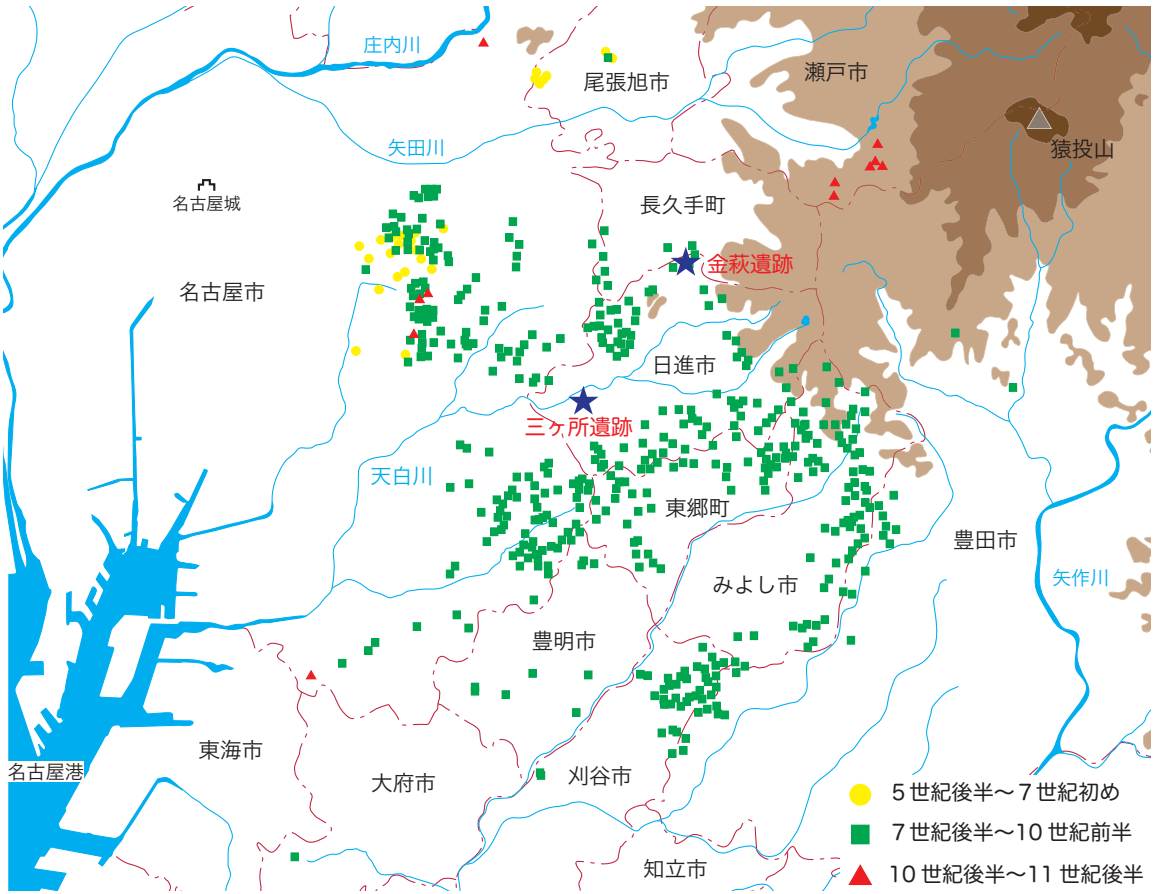
三ヶ所遺跡

三ヶ所遺跡（日進市）は天白川左岸の平地に立地しています。遺跡では溝や土坑がみつかっていますが、その中から歪んだり、くっついた不良品の土器が多く出土しています。このような不良品は窯の近くに捨てられているものと同じものです。近くには窯を作る場所がありませんから、遠くの丘陵にある窯から運んできたと思われます。

なぜわざわざ持ってきたのでしょう。

これは、窯で焼いた製品を三ヶ所遺跡に集め、そこで不良品を選別し、北を流れる天白川を、船を使って消費地まで運んだのではないかと考えられています。

※長久手町教育委員会『平成 19 年度長久手町郷土資料室特別展
丁子田窯跡・市ヶ洞1号窯跡発掘調査報告～古代長久手から飛鳥へ～』を改変

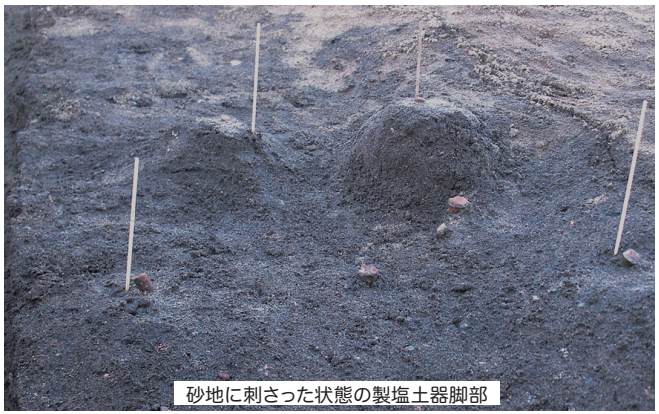


塩（しお）をつくる

製塩土器
所蔵：東海市教育委員会
写真：愛知県史編さん室

塩作りの様子の復元
写真：東海市教育委員会

松崎遺跡（東海市）
古墳時代～平安時代
＜５世紀～９世紀＞



砂地に刺さった状態の製塩土器脚部

製塩土器などが捨てられ堆積した様子

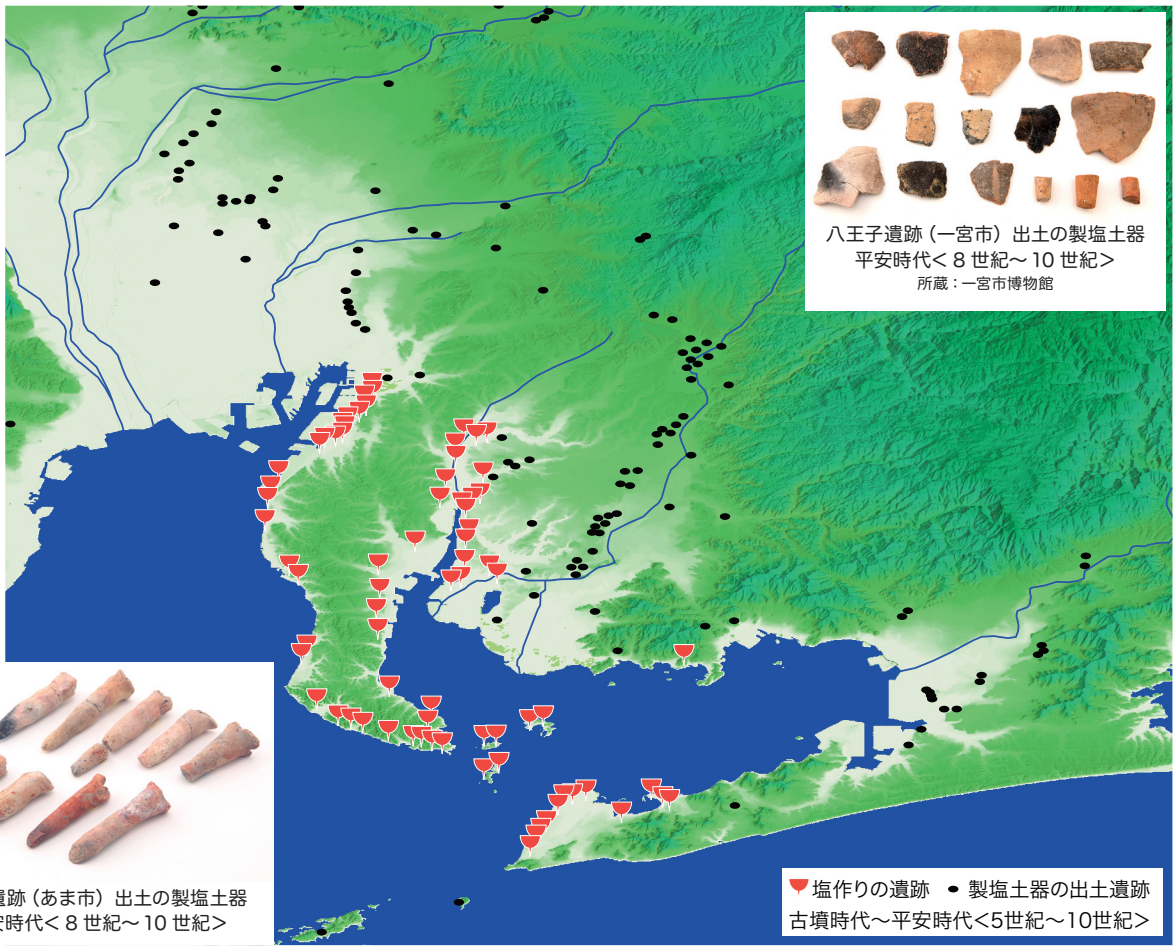
塩作り

海水から塩をつくりますが、そのまま煮詰めても多くの塩を作ることができません。

効率よく塩を得るために、海水からさらに塩分濃度を濃くしたものをこしらえ、それを煮詰めて塩を得ていました。知多半島・渥美半島の海岸部にはこのような塩作りをした場所が数多くありました。

塩作りの煮炊きには、製塩土器（せいえんどき）と呼ばれる専用の土器が使われました。器の下に角状（つのじょう）の足がついており、砂地に突き刺し煮炊きを行なうのに適した形になっています。煮炊きして塩を作った時に破裂したり、あるいは取り出す時に壊したりしたようです。

作られた塩は、海岸部から内陸部にも運ばれていきました。その運搬にも製塩土器が使われることもありましたし、にがりをなくすために土器を使ってさらに加熱されたこともあったようです。



八王子遺跡（一宮市）出土の製塩土器
平安時代< 8 世紀～ 10 世紀>
所蔵：一宮市博物館

大渕遺跡（あま市）出土の製塩土器
平安時代< 8 世紀～ 10 世紀>

布をつくる　漆塗りをつくる

松崎遺跡（東海市）出土の鉄製紡錘車
所蔵：東海市教育委員会

水入遺跡（豊田市）出土の漆付着土器

布をつくる

布は機織りで織って作られますが、その前に布のもととなる糸を準備しなくてはなりません。

糸素材から糸を繰り出して撚るのに、紡錘車という道具を使います。これに巻き付けて撚った糸を作ります。ここから別の木の枠に巻き移し、綛（かせ）という糸の束を作り、染色などの作業を行ないます。その後、また別の糸繰りに巻き移されて、布として織る糸が完成します。

漆塗り

漆製品は、塗料になる漆の生産と、素地になる製品の生産、漆塗りの作業を経て完成します。塗料としての漆はウルシの木から樹液を採取し、いろいろな精製の作業を経て、はじめてできあがります。

塗料としての漆の需要は高く、塗料の状態で漆が流通したようです。各地で木製品など多くの漆製品が作られました。陶器や土器をパレットにして、漆塗りの作業がおこなわれました。

かなもの

金物をつくる

鉄滓

西山製鉄遺跡（春日井市）
平安時代 <9 世紀 >
写真・所蔵：春日井市教育委員会

市道遺跡（豊橋市）出土の鉄器
所蔵：豊橋市美術博物館

金物作り

鉄の道具は、まずは製鉄炉で鉄素材が作られ、純度を上げたのち、鍛冶炉で目的の道具に作られます。

西山製鉄遺跡では、鉄鉱石から鉄素材を作っていたようで、鉄鉱石と多量の鉄滓（鉄分の抜けた残りかす）が出土しています。

当時、刀・刀子・鎌など、刃物は鉄で作られ、たたいて作る鍛造で作られました。また、鍋や銭などは、型に流し込む、鋳造で作られたようです。

大毛沖遺跡（一宮市）出土の鉄鍋
所蔵：一宮市博物館

市道遺跡出土の和同開珎
所蔵：豊橋市美術博物館

おおがた 大型プロジェクト

三河国府跡（豊川市）　東脇殿調査状況
※人の立っている場所に建物の柱がありました。
写真：豊川市教育委員会

三河国分寺出土の軒丸瓦
所属：豊川市教育委員会
写真：愛知県史編さん室

塔基壇の「掘り込み地業」
写真：豊川市教育委員会

赤塚山古窯（豊川市）
平安時代<9世紀～10世紀>
写真：豊川市教育委員会

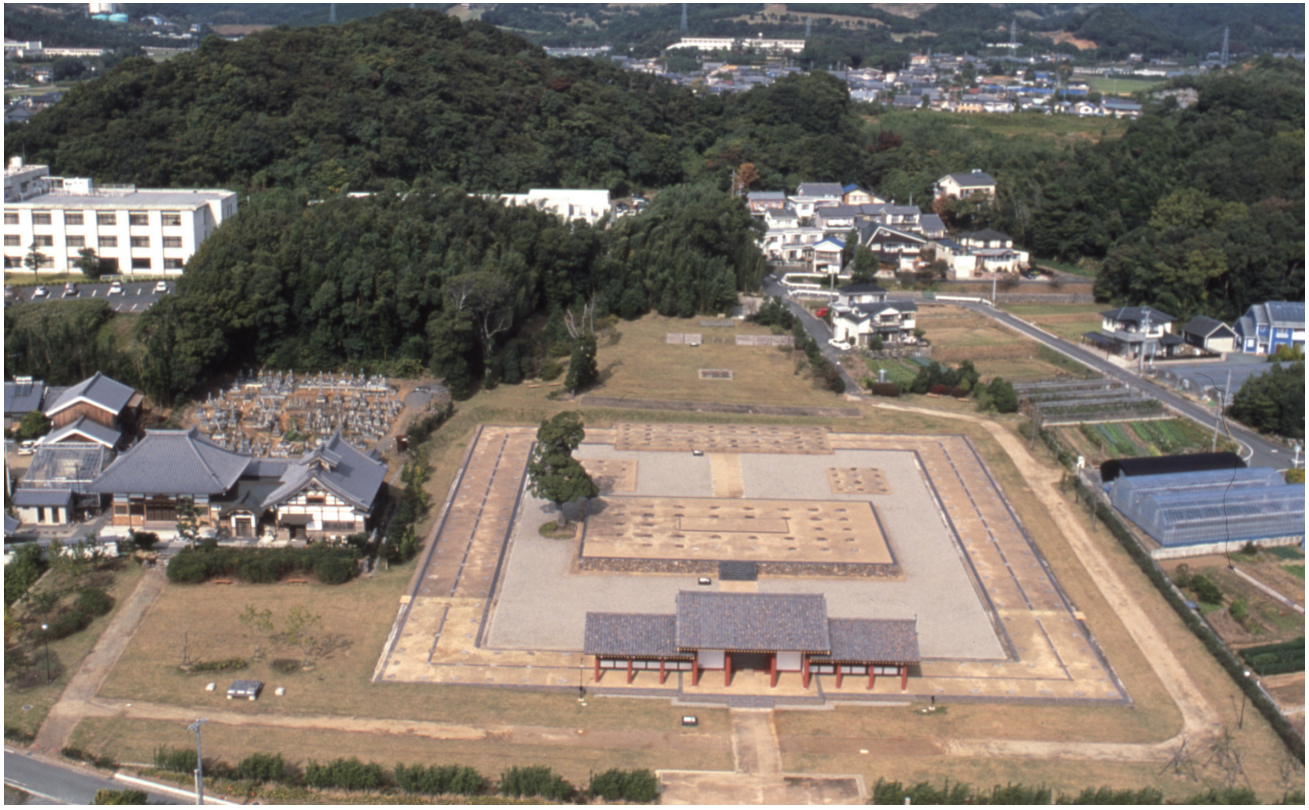
建設中の塔基壇

三河国分寺跡（豊川市）
奈良時代～平安時代<8世紀～10世紀>

三河国府跡・三河国分寺跡・三河国分尼寺跡・赤塚山古窯

飛鳥時代～奈良時代になると、律令という法律をもとにした政治がおこなわれ、都を中心とした官僚組織が整えられていきます。この役人が働いていた場所が、藤原京や平城京などの宮都や、各地方の国府にある国衙（国庁）です。また天平 13 年（741 年）国分寺建立の詔により、地方ごとに国分寺と国分尼寺を置くことになりましたが、多くの場合、国府内かその周辺に建てられています。当時国府や寺にある建物は、瓦を葺くなどの最新技術が使われる、その地域最大の建築物でした。

三河国では名鉄本線「国府駅」東側に、国府・国分寺・国分尼寺が作られました。国府では正殿や後殿・脇殿などの大型掘立柱建物などが、国分寺では２ｍも掘り下げ、中に土を入れてつきかためることによって基壇を作り（掘り込み地業）、周辺を角材で覆った塔などがあったことがわかっています。また、これらの建物にもちいる瓦を焼くための瓦窯・赤塚山古窯も近くに作られており、計画的に進められた大規模な工事がおこなわれたことがうかがえます。



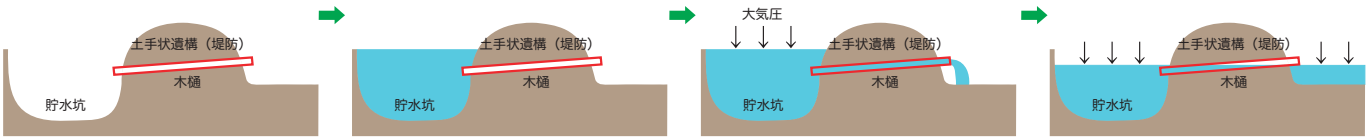
復元された三河国分尼寺
写真：豊川市教育委員会

水路（すいろ）をつくる

飛鳥時代（７世紀）には、それまで各地の豪族などが支配していた農地を中央政府が統一的に管理するようになり、律令の決まりにもとづき、住民には一定の農地（口分田（くぶんでん））が支給されていました。ところが奈良時代（８世紀）になって、墾田永年私財法（こんでんえいねんしざいほう）（天平 15 年 [743 年]）などが制定され、新しく開墾（かいこん）した土地（墾田（こんでん））の私有化が認められると、以後農地の開発が活発におこなわれるようになりました。

室遺跡（西尾市）
奈良時代～平安時代<８世紀～ 11 世紀>

木樋の使用法模式図



木樋を堤防の下に埋め込みます。

貯水坑に水を引き込みます。

大気圧に押され水が堤防の反対側に流れます。

水位が同じ高さになり、大気圧がつりあうと、水の流れが止まります。

室遺跡：木樋AとBの出土状況

室遺跡（西尾市）では、３基の木樋がみつかっています。この中には長さ 8.7 m・幅 1.2 mを測る大きなものもあります。木樋は逆サイフォンの原理を使い、堤防の下を通して高いところにある水田またはため池に水をひくためのもので、新しく開墾された農地の水を得るために、大規模な土木工事がおこなわれたことが想定されます。

寺部遺跡（豊田市）：木樋の出土状況
平安時代<9世紀>
写真：豊田市郷土資料館

寺部遺跡（豊田市）では長さ 4.4 m・幅 0.25 mの木樋がみつかっており、堤防内に溜まった水を排水するために使われたと考えられています。

室遺跡：木樋Bの出土状況

室遺跡：木樋Cの出土状況
木樋CはBの下でみつかっています。

公務員の仕事

国府では、都から派遣された国司や地元の郡司を中心に多くの役人が働いていました。役人は職による上下関係がはっきりときめられており、地位によって服装などにも細かいきまりがありました。主な仕事としては、税を集めることや、治安維持のための軍の管理があげられます。

市道遺跡（豊橋市）出土の帯金具
所蔵：豊橋市美術博物館
役人の身分の上下を示すためにつけられる帯の飾りです。

三河国府跡正殿（豊川市）
平安時代＜9世紀～10世紀＞
写真：豊川市教育委員会

三河国府跡出土の墨書土器
所蔵：豊川市教育委員会　写真：愛知県史編さん室

官庁の諸施設に対する食事の準備や、食料の調達・管理などを担当する部署の備品であることを示したものと考えられます。

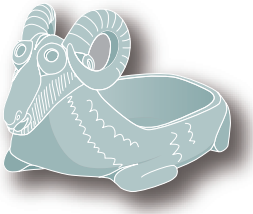
大毛池田遺跡（一宮市）出土の円面硯（えんめんけん）
所蔵：一宮市博物館

惣作遺跡（安城市）出土の木簡
「呉部足国」（くれべのたりくに）という人名が書かれています。三河国碧海（あおみ）郡皆見（あざみ）郷（今の西尾市北東部付近）にいた人物の可能性があります。
※今回は展示していません。

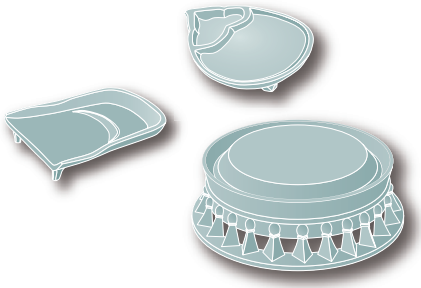
下懸（安城市）遺跡出土の木簡
「[算カ] 米物受被 [賜カ]」という文字が書かれています。米を含む物品の受け取りにかかわる文書と考えられます。
※期間を限って展示しています。

下懸遺跡（安城市）出土の木簡
「春春春秋秋」など同じ文字が何度が書かれています。これは文字を練習したもので、習書木簡（しゅうしょもっかん）とよばれています。
※今回は展示していません。

三河国府跡（豊川市）出土の羊形硯（ひつじがたすずり）
所蔵：豊川市教育委員会
写真：愛知県史編さん室



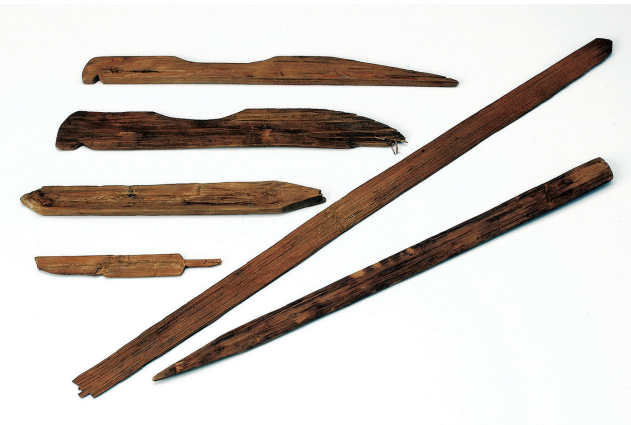
田所遺跡（一宮市）出土の猿面硯（えんめんけん）
所蔵：一宮市博物館
土器の破片を転用した硯です。形が猿の顔に似ていることから名付けられたといわれています。



古代の役所でも今の役所と同じように、多くの書類がつくられていました。長い文章は紙に書かれたようですが、役所の記録や連絡、税として納めた荷物の内容などの短い記録には木簡（もっかん）がつかわれました。木簡は細長い木の板に墨で文字を書いたもので、表面の文字を削ることによって、再利用されています。そのため当時の役人には、文字を書く筆（ふで）・墨（すみ）・硯（すずり）のほかに刀子（とうす）（小刀）が必需品でした。

けがれをはらう

勝川遺跡（春日井市）：人形出土状況　奈良時代＜8世紀＞

勝川遺跡（春日井市）出土の人形
平安時代＜9世紀～11 世紀＞

志賀公園遺跡（名古屋市北区）出土の馬形・舟形・刀形・斎串
飛鳥時代～奈良時代＜7世紀～8世紀＞

古代において、災いや病気は穢れや罪・祟りが原因と考えられており、穢れや罪・祟りを取り除くための禊や祓いといったことが常におこなわれていました。祓いには木製の人形・馬形・舟形・刀形・斎串などが用いられます。穢れや罪を木製の人形に移して、馬形・舟形に乗せて運び、水に流すといったことがおこなわれていたようです。また刀形は邪気から身を守るための武器、斎串は結界をはるためのものと考えられています。

このような祓いは日常生活の中だけではなく、国や地方の祭祀としてもおこなわれ、その方法が定められていきます。これら公の祓いをするのも政治・行政と同様、役人の重要な仕事であり、官庁の近くでは多くの祭祀遺物が出土します。

文字を書く

古代の遺跡を調査すると、墨で書かれたり、ヘラによって刻まれたりした文字や記号がある土器が出土します。これらの文字や記号には、土器の持ち主や役職、使われている場所、作られた場所などを示すもの、おめでたい文字や文句を書いたもの、文字を練習したものなどがあります。

「文室門」
上品野蟹川遺跡（瀬戸市）

「文室門」については、「大学寮の門」の意味ではないかという解釈があります。大学寮とは、都にある官僚の育成機関のことです。出土した墨書は、上品野蟹川遺跡周辺にいた学生が中央の大学寮への進み、官僚になることを願って書いたものかもしれません。

使われている場所

「沙中房」＜寺の施設＞
清洲城下町遺跡（清須市）

「寺」
勝川遺跡（春日井市）

「多万」
勝川遺跡（春日井市）

「万」
勝川遺跡（春日井市）

作られた場所

「美濃」
大毛池田遺跡（一宮市）
所蔵：一宮市博物館

「財」
猫島遺跡（一宮市）
所蔵：一宮市博物館

おめでたい文字

「太」
勝川遺跡（春日井市）

「吉」
上品野遺跡（瀬戸市）

のうぎょう 農業

勝川遺跡（春日井市）：馬鍬出土状況

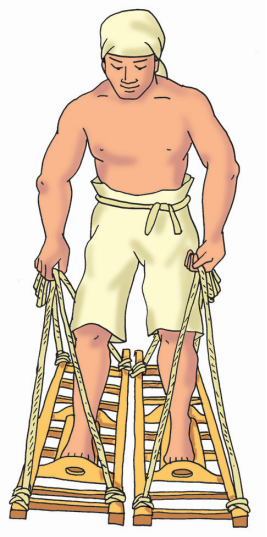
志賀公園遺跡（名古屋市北区）出土の又鍬・田下駄

志賀公園遺跡（名古屋市北区）出土の竪杵

寺部遺跡（豊田市）：大足の出土状況
平安時代<8世紀～9世紀>
写真：豊田市郷土資料館

田下駄・大足

水田の作業をおこなう時にもちいる履き物です。水田にはまらないように履く田下駄と、田を歩いて稲株などを踏み込み、表面の調整をおこなう大足があります。



農業に牛や馬をつかって、土起こしや整地をおこなうようになったのは古墳時代後期（6世紀）ごろと考えられており、農地の開発・開墾が進む平安時代以降全国に普及していきました。このような動物をつかった耕作は人力にくらべて作業能率が高く、飛躍的に農業生産力を高めたと思われます。

ぎょぎょう 漁業

大渕遺跡（あま市）出土の管状土錘

この地方では古墳時代後期以降、孔のあいた管状土錘（土製のおもり）の出土がめだつようになり、網を使った漁撈が盛んになったことがうかがえます。海に近い遺跡で出土する土錘は太いものが多く、川に近い遺跡から出土する土錘は細くなっています。

松崎遺跡（東海市）出土の鉄製釣り針

大毛池田遺跡（一宮市）
出土の土錘
所蔵：一宮市博物館
瀬戸内海地方で使われているものです。

梅坪遺跡（豊田市）：土錘出土状況
写真：豊田市郷土資料館

ちくさんぎょう 畜産業

木製鐙は大毛沖遺跡の平安時代（９世紀）の旧河道から出土しています。足を乗せる部分が長くのびる「舌鐙」と呼ばれる形をしており、表面には黒漆が塗られていました。

中田古窯（豊橋市）出土の土製馬
所蔵：豊橋市美術博物館

大毛沖遺跡（一宮市）出土の木製鐙
所蔵：一宮市博物館

	• 593	推古元年	聖徳太子が推古天皇の摂政になる。
600			
7世紀	• 607	推古 15 年	小野妹子らを隋に送る（遣隋使）。
	• 618	推古 26 年	唐、中国を統一。
	• 630	舒明２年	犬上御田鋤を唐に送る（遣唐使）。
	• 645	大化元年	大化の改新。
	• 672	天武元年	壬申の乱。
	• 694	持統８年	持統天皇が藤原京に都を移す。
700			
8世紀	• 710	和銅３年	元明天皇が平城京に都を移す。
	• 723	養老７年	三世一身の法が出される。
	• 741	天平 13 年	国分寺・国分尼寺の建設が始まる。
	• 743	天平 15 年	墾田永年私財法が出される。
	• 752	天平勝宝４年	東大寺の大仏ができる。
	• 794	延暦 13 年	桓武天皇が平安京に都を移す。
800			
9世紀	• 804	延暦 23 年	最澄と空海が唐にわたる。
			このころ「竹取物語」「伊勢物語」がつくられる。
	• 894	寛平６年	遣唐使を廃止する。
900			
10世紀	• 905	延喜５年	「古今和歌集」ができる。
	• 935	承平５年	平将門の乱、藤原純友の乱。
	• 960	天徳４年	中国に宋が起こる。
			このころ「枕草子」がつくられる。
			このころ「源氏物語」がつくられる。
1000			
11世紀	• 1016	長和５年	藤原道長が摂政になる。
	• 1053	永承８年	平等院鳳凰堂ができる。
	• 1086	応徳８年	白河上皇による院政がはじまる。
1100			
12世紀	• 1156	保元元年	保元の乱。
	• 1159	平治元年	平治の乱。
	• 1192	建久３年	源頼朝が征夷大将軍になり、鎌倉幕府をひらく。

飛鳥時代

奈良時代

平安時代

愛知県陶磁資料館企画展　愛知県埋蔵文化財センター埋蔵文化財展

1000年前のハローワーク

–見て触れて、親子で楽しい愛知の考古学–

発行日　2010年7月3日
発　行　愛知県埋蔵文化財センター
制作・編集　愛知県陶磁資料館　愛知県埋蔵文化財センター